

2025年9月7日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第68巻第21号(通算3458号)  
教会設立 1959年6月14日

しゅうほう  
**週報**

教会標語

小さくされている人を  
大切に**する**教会



〒581-0072 主任担任教師・牛田 匡 牧師  
大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10 隠退教師・小林 達夫 牧師  
TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト) <http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」  
kyuho-church@koinonia.or.jp  
【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

この「確かさ」は当て外れということがありません。私たちが頂いている聖霊の働きによって、人を大切に**する**神の思いが、すでに私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:5)

せいれいこうりんせつ だい しゅうじつれいはい  
**聖霊降臨節 第14主日礼拝**

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう ちよさくけんしやうめつ  
前奏(黙祷) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)  
まね ことば しよ  
招きの詞 ハバクク書 3章17-19節  
さんびか ばん つく さんびかかいていいんかい  
賛美歌 21-223番「造られたものは」(©讚美歌改訂委員会)  
せいしよ しんと てがみ しやう  
聖書 ローマの信徒への手紙 8章18-25節

いの  
お祈り  
さんびか ばん  
賛美歌 21-425番「こすずめもくじらも」(©JASRAC)

くる うめ せかい なか うしだ ただし ぼくし  
メッセージ「苦しみ呻く世界の中で」 牛田 匡 牧師

さんびか せいこうかいせいかしゅう ばん  
賛美歌 『聖公会聖歌集』476番「くらやみゆくときには」(©JASRAC)  
ユーカリスト うしだ ただし ぼくし  
聖餐 牛田 匡 牧師

きやうどう いの へいわ  
共同のお祈りと、平和のあいさつ  
さんびか ばん な ちよさくけんしやうめつ  
賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

しゅ いの  
主の祈り  
ささげもの  
献げ物(\*)  
は けん ばん かみ めぐ う せつ  
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)  
しゅくふく うしだ ただし ぼくし  
祝福 牛田 匡 牧師

こうそう ばん きやうだんさんびかいいんかい  
後奏 アーメン コーラス(21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)  
ほうこく ページ さんしやう  
報告 (4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\*受付に献金箱がございます。

「献げ物(献金)」はご用意のある方のみ、お献げください。

17 いちじくの木に花は咲かず

ぶどうの木は実をつけず

オリーブも不作に終わり

畑は実りをもたらさない。

羊はすべて囲いから絶え

牛舎には牛がいなくなる。

18 それでも、私は主にあって喜び

わが救いの神に喜び躍る。

19 神である主はわが力

私の足を雌鹿のようにし

<sup>a</sup> 高き所を歩ませてくださる。



(脚注 a : 直訳「私の高い所」)

聖書 ローマの信徒への手紙 8章 18-25節 (聖書協会共同訳)

18 思うに、今この時の苦しみは、将来私たちに現されるはずの栄光と比べれば、取るに足りません。19 被造物は、神の子たちが現れるのを切に待ち望んでいます。20 被造物が虚無に服したのは、自分の意志によるのではなく、服従させた方によるのであり、そこには希望があります。21 それは、被造物自身も滅びへの隷属から解放されて、神の子どもたちの栄光の自由に入るとい希望です。22 実に、被造物全体が今に至るまで、共に呻き、共に産みの苦しみを味わっていることを、私たちは知っています。23 被造物だけでなく、霊の初穂を持っている私たちも、子にしてくださいこと、つまり、体の贖われることを、心の中で呻きながら待ち望んでいます。24 私たちは、この希望のうちに救われているのです。現に見ている希望は希望ではありません。現に見ているものを、誰がなお望むでしょうか。25 まだ見えないものを望んでいるのなら、私たちは忍耐して待ち望むのです。

《先週のメッセージより》 2025年8月31日

「相手の中に神を見る」

牛田匡牧師

聖書 コロサイの信徒への手紙 3章18節-4章1節

「妻・女は、夫・男に従いなさい」(18)、続いて「子どもは親に従いなさい」(20)、そして「奴隷は主人に従いなさい」(22)と記されているこれらの言葉は、「家庭訓」と呼ばれるものです。しかし、福音書に記されているイエス様の言動は、そのような閉じた関係性に留まるものではありませんでしたし、また「あなたがたは皆、真実によって、キリスト・イエスにあって神の子なのです。キリストにあずかる洗礼(バプテスマ)を受けたあなたがたは皆、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです」(ガラテヤ 3:26-28)と記すパウロの言葉によっても、聖書が伝えているのはむしろ反対のように思われます。それにもかかわらず、このような「家庭訓」が聖書の中に記されているのは、この「家庭訓」が、当時の社会を支配していたローマ帝国の価値観や家庭観に基づくものだからでした。

最初期の教会は厳しい迫害を受け、人も文書も次々に処分されていった時代の中で、そのような時代を生き残り、他の人々に書き伝え、残し伝えていくために、表面的にはローマの価値観に従った文書を書きつつ、本当に伝えたかった真意は、別にあったと思われまます。そしてその真意とは、「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい」(23)、言い換えるならば、「何をするにも、それは人間に対してすることではなく、神様に対してするのだと思って、気持ちを込めて行ってください」ということだったのだらうと思います。自分の中だけではなく、相手の中にも神様の存在が確かにあるということを認める時、私たちは決してその相手をぞんざいに扱うことはしないはずです。そのようにしてお互いが相手の中に共におられる神様の存在を見出していく時、この世界には愛と平和が広がっていくのではないかと思います。

「戦後80年、二度と戦争は繰り返してはならない」と言いながら、今日、世界はまさに戦争への下り坂を下り始めています。たった今もあちこちで多くの血が流され、命が奪われています。そのような大きな暴力が振るわれている中で、それでも光が暗闇に閉ざされてしまわないように、私たちは命と平和の神に祈り求め、そして全ての命が生かされる道を歩み続けます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



